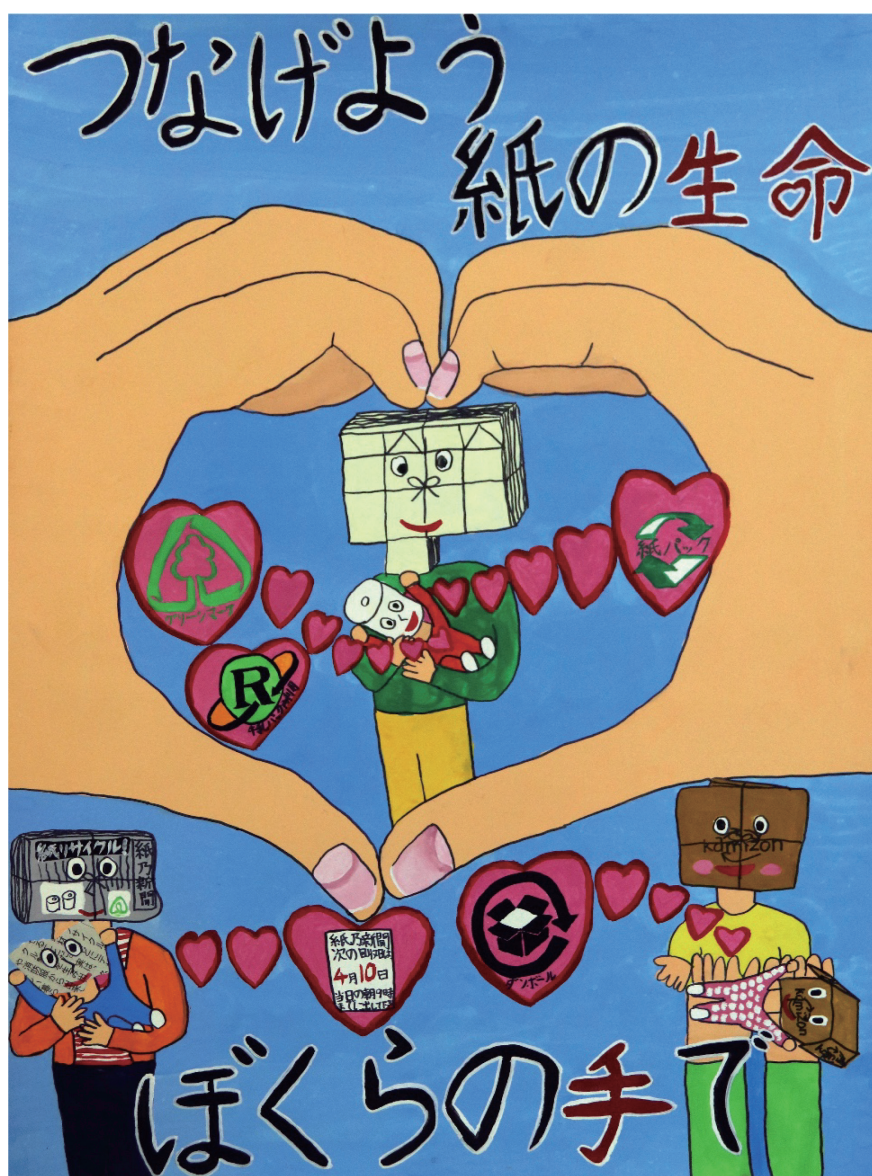


会報

公益財団法人 古紙再生促進センター



第48巻第1号

1

2022

- ◆ 年頭挨拶（古紙再生促進センター代表理事）
- ◆ 年頭所感（経済産業省素材産業局素材産業課長）
- ◆ 出前授業実施報告
- ◆ 海外古紙統計



— 目 次 —

活 動 報 告

- ・ 年頭挨拶 公益財団法人古紙再生促進センター 代表理事 長谷川 一郎 1
- ・ 年頭所感 経済産業省製造産業局 素材産業課長 吉村 一元 …… 3

活 動 報 告

- ・ 令和3年度紙リサイクルセミナー開催報告 …… 5
- ・ 出前授業（静岡地区：富士市立田子浦小学校） …… 10
- ・ 出前授業（坂戸市立桜小学校） …… 12
- ・ 出前授業（志木市宗岡第三小学校） …… 14

センター日誌 …… 16

（表紙）

全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2020

ポスター部門 銀賞

名古屋市立大清水小学校 4年 加藤 航生

タイトル「生命をつなぐリサイクル」



令和4年 年 頭 挨拶

公益財団法人古紙再生促進センター
代表理事 長谷川 一 郎

令和4年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。年頭に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年の我が国経済におきましては、内閣府の月例経済報告において、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、引き続き持ち直しの動きに弱さがみられるとされております。

また、新型コロナウイルス感染症については、ワクチン接種等の効果もあって、新規感染者数は足元で低い水準にあり、行動制限も段階的に解除されておりますが、感染の再拡大などによる景気の下振れリスクに十分注意することが必要です。

こうした状況において、昨年10月に発足した岸田政権は、経済の下支えや押し上げを図るため、11月に事業規模総額で78.9兆円のコロナ克服・新時代開拓のための経済対策を策定し、ウイズコロナ下での社会経済活動の再開となる危機への備えなどの大規模な財政政策を講じたところです。

さて、製紙業界の1年を振り返りますと、一昨年来、板紙の生産が紙の生産を上回る状況が続いております。これは、紙の生産がデジタル化、少子高齢化等による構造的な減少に加え、コロナ禍で新聞やチラシなどの需要が低下した一方、板紙の生産は通販の増加や段ボール原紙の輸出に支えられ、堅調に推移したことが主な要因でした。昨年の1月～10月の累計でも、板紙の生産が紙の生産を約42万トン上回っており、今後もこの傾向は続くものと思料されます。

古紙を取り巻く状況を見ますと、昨年の年初から中国向け古紙輸出量がゼロになったことにより、古紙の輸出先の振り替えが必要でしたが、東南アジア、台湾などへの拡販が進み、また、段ボール原紙輸出などによって、国内の古紙余剰を回避してまいりました。

他方、昨年夏頃から、国内の古紙を取り巻く環境が大きく変化し、コロナ禍や天候不順の影響を受け、古紙の発生や回収が低調に推移したこともあって、国内の古紙在庫が減少してきており、地域によって温度差はあるものの、昨年末以降の更なる古紙の在庫減少が懸念される状況です。

センターとしましては、緊急事態宣言解除で停滞していた人や物の流れが改善されることによって、古紙の発生や回収も回復し、需給バランスも落ち着いてくることを期待しておりますが、持続的な紙リサイクルシステムの維持・向上を目指し、今まで以上に需給両

業界と協力し、適切に対処していきたいと存じます。

ご高承のとおり、我が国の令和2年度古紙回収率は84.4%、古紙利用率は、67.5%と極めて高い水準を維持しています。資源有効利用促進法に基づく古紙利用率の目標は、令和2年度末において65%とされておりましたが、コロナ禍という特殊な環境下の中、結果として、当該目標を達成することができました。これもひとえに、製紙業界や古紙業界をはじめ、回収業界、自治体などの紙リサイクルに携わる関係各位の長年に亘るご努力の賜物と考えている次第です。

次期古紙利用率は、令和7年度末の目標となりますが、紙・板紙の生産や古紙の回収・輸出状況などを踏まえ、令和2年度末の目標と同様に65%に据え置かれたものと理解しております。

当センターは、昭和49年の設立以来、古紙需給両業界などの関係者のご支援・ご協力を得て、紙リサイクルに関わる地道な活動を重ね、古紙回収や古紙利用の促進に貢献してきたところであり、今後とも、新目標65%の達成をはじめ紙リサイクルが一層促進されるよう努力を重ねてまいり所存であります。

このようなセンターの古紙回収や利用率向上への取り組みは、資源である古紙の有効利用や廃棄物の減量化を通して、我が国の持続可能な社会の実現を目指すものであり、ひいては、“SDGs”という大きな枠組みの中での社会的要請に応えるものであると認識しております。

昨年に続き、本年も製紙業界、古紙業界にとって大変厳しい状況が続くかと思われますが、当センターといたしましては、我が国の紙リサイクルの健全なる発展に影響を及ぼさないよう、行政、製紙業界、古紙業界、回収業界など、様々なステークホルダーの方々と多様な交流を推進し、相互理解を深め、古紙市場、経済動向についても知見を深め、今後とも安定した紙リサイクルを目指してまいります。

また、製紙業界、古紙業界をはじめとする様々な紙リサイクル関係者の叡智を結集し、紙リサイクルの促進の要として諸活動を進めて参りたいと考えております。

最後になりましたが、本年が皆様方にとりまして、希望に満ちた明るい年になりますよう心からご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



年 頭 所 感

経済産業省 製造産業局
素材産業課長 よしむら かつもと 吉村 一元

令和4年の新年を迎え、謹んでお喜び申し上げます。また、平素より経済産業行政に対する深いご理解と格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、先進国を中心にワクチン接種が進み、経済活動の回復の兆しが見えた一方で、東南アジアでロックダウンによるサプライチェーンの混乱が生じるなど、コロナの影響が残る1年でした。まずは、これまでお亡くなりになられた方々の御冥福をお祈り申し上げますとともに、今なお、健康面や生活面で多くの影響を受けている皆様に、心よりお見舞い申し上げます。また、産業界の皆様には、テレワークの推進や時差出勤、職域接種によるワクチン接種の加速など、様々な形で御協力をいただき、改めて感謝申し上げます。

昨年はまた、新型コロナウイルス感染拡大に加えて世界各地での災害に伴う影響など、日本の製造業のサプライチェーンの強靱化が益々重要視された一年でもありました。こうした中、経済産業省としては、生産拠点の集中度が高い製品・部素材や国民が健康な生活を営む上で重要な物資の国内生産拠点等整備を進めてまいりました。

こうした足下の措置を着実に進める一方で、ポストコロナを見据えた新たな社会の実現や経済成長に向けた動きも注視していかなければなりません。安全保障上のインパクトを有する新興技術や、それを支える先端半導体等の基盤技術など、戦略的物資の確保や重要技術の獲得に対して各国が巨額の産業政策を打ち出しており、経済と安全保障が密接不可分な領域における対応が重要になっています。更には、国際的な脱炭素の流れの加速の中で、環境と経済の両立に向けて、これまでの製造プロセスそのものを見直す必要も迫られています。

素材産業は、自動車や電機電子、医薬品・消費財、建設資材など、我々の身の回りにあるありとあらゆる製品の素材を供給することで社会経済を下支えする非常に重要な産業であり、また、これら素材産業が生み出す多種多様な素材は、それ自体が日本の競争力の源泉ともいえます。他方で、化学や紙・パルプ、セメントなど、原料に大量の熱や圧力を加えて生産される装置型産業を中心として、エネルギーを大量に消費する「エネルギー多消費産業」でもあります。

一昨年には、日本においても「2050 カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言し、昨年には、2030年度の新たな温室効果ガス削減目標として、2013年度からの46%削減、さらに50%の高みに向けて挑戦を続けるという新たな方針を示しました。これを実現するためには、エネルギー関連分野に留まらず、素材産業も含め様々な産業分野においてチャレンジをしていかなければなりません。このため、昨年には「グリーン成

長戦略」を具体化し、14の重要分野について実行計画を策定しました。

我が国のCO₂排出量の約1/4を占める基礎素材産業分野における脱炭素化推進に向けては、グリーンイノベーション基金による研究開発支援や、自家用石炭火力発電等の脱炭素化推進に向けた調査事業などに取り組んでまいります。これらのカーボンニュートラルに向けた取組は、もはや経済成長の制約ではなく、新たなビジネスチャンスにつながる成長戦略そのものです。革新的な技術開発を通じ、日本の素材産業がこれまで以上に国内外の産業界全体に貢献する産業となっていくことを期待しています。

また、製造業の競争力強化を図る上で、サプライチェーン全体での取引適正化や、取引条件の改善も重要な課題です。昨年は、9月を価格交渉促進月間と設定し、取引環境の改善に向けた取組の普及・啓発を進めました。さらに、昨年改正した下請中小企業振興法・振興基準の内容等を踏まえ、紙・パルプ産業でも関係する二つの団体において、下請取引適正化に向けた自主行動計画の改定を実施いただきました。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、生活様式、ビジネス様式の変化をもたらし、それに伴い需要構造が変革しました。加えて、石炭やLNGなどの化石燃料高騰、古紙やチップ、パルプなどの原料価格上昇といった外的要因もあり、紙・パルプ産業にとって厳しい状況が続いております。更には、水際対策の強化に伴う国際的な人の往来の制限や、物流業界の労働規制への対応等も求められる中、国内の安定供給を維持しながら最適な生産体制を再構築し、より一層の環境投資を進めていくことが期待されます。

コロナ禍についてはまだまだ予断を許さない状況ではありますが、経済産業省としては、様々な施策を総動員し、産業界の皆様とも連携しながら、素材産業の成長のために全力を尽くしていく所存です。新たな変革の必要な時代に、是非皆様のお力をお借りしたいと思います。そして、この新しい時代を迎えるにあたって、皆様の御健康と御多幸を、そして素材産業の更なる発展を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

令和 3 年度 紙リサイクルセミナー開催報告

令和 3 年度「紙リサイクルセミナー」は下記の通り開催され、盛況のうちに無事、終了いたしました。

本年度は昨年同様新型コロナウイルス感染症対策として、会場だけでなく YouTube でのライブ配信を並行して行いました。また、10 月 18 日（月）～11 月 1 日（月）までの期間、録画配信を行いました。

ご来場・ご視聴いただき、心より感謝申し上げます。



記

日 時	令和 3 年 10 月 15 日（金） 13 時 30 分から 16 時 10 分
開 場	星陵会館
主 催	公益財団法人古紙再生促進センター
後 援	経済産業省
参加人数	会場 48 名 ライブ配信 約 140 名 録画視聴 約 820 名

＜セミナー＞

開会挨拶 （公財）古紙再生促進センター 代表理事 長 谷 川 一 郎

講 演 I 「Towards 2030～SDGs 目標に対するワーキンググループ検討結果～」

日本製紙連合会 SDGs 委員会委員長

日本製紙株式会社 参与 CSR 本部長 上 野 満 男 氏

II 「自治体の古紙回収の取組みと課題～紙リサイクル施策調査より～」

有限会社グローバルプランニング 取締役 小 笠 原 秀 信 氏

III 「中国製紙業界と東南アジア諸国の現状」

国際紙パルプ商事株式会社 グローバルビジネス統括本部

製紙原料営業本部 本部長 中 道 徹 氏

閉会挨拶 （公財）古紙再生促進センター 副理事長 栗 原 正 雄

司 会 （公財）古紙再生促進センター 業務部長 中 田 広 一

<開会挨拶要旨>

公益財団法人 古紙再生促進センター 代表理事 長谷川 一郎

- ・令和2年度古紙回収率は84.4%、古紙利用率は67.5%と高いレベルを維持している。資源有効利用促進法に基づく古紙利用率目標は令和2年度末で65.0%であり、この目標を達成することができた。目標達成の要因は新型コロナウイルス感染症の影響で新聞やチラシなどの紙の生産量が減少し、相対的に古紙利用率の高い板紙の生産割合が高まったからである。このような要因を鑑み、次期目標となる令和7年度末の古紙利用率目標は65.0%に据え置かれた。
- ・当センターは利用率目標が同水準であっても、今まで以上に利用率向上に向けた取り組みを継続していく必要がある。また、古紙品質実態調査などの調査事業によりの確な情報把握に努め、関係者における共通認識を形成し、紙リサイクルに関する取り組みを促進していく所存である。こうした取り組みは古紙・製紙業界だけでなく、資源の有効活用を通じて持続可能な社会の実現を目指すものであり、SDGsという大きな枠組みの中でその社会的要請に応えるものであると考える。
- ・今年7月前後から国内の古紙を取り巻く環境は大きく変化した。新型コロナや天候不順も重なり、古紙の発生・回収が低調に推移しており、これを受けて製紙メーカーは7月以降各社の判断で国内を優先し、段原紙輸出を削減する措置を講じている。今後新型コロナウイルスの第6波や東南アジア・中国の動向といった不透明な要素が残るものの、当センターは持続的な紙リサイクルシステムの維持向上を目指し、これまで以上に需給両業界と協力しながら適切に対処していく。



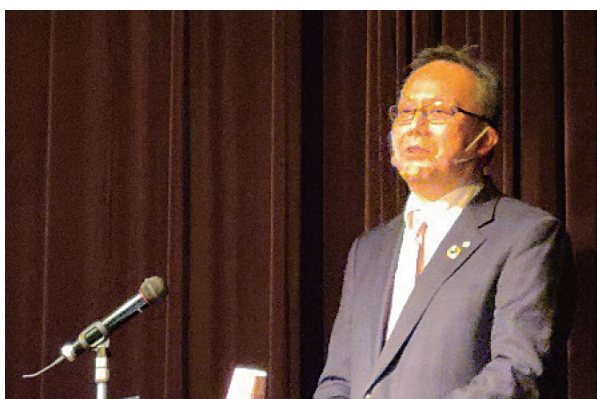
<講演概要>

「Towards 2030 ～ SDGs 目標に対するワーキンググループ検討結果～」

日本製紙連合会 SDGs 委員会委員長

日本製紙株式会社 参与 CSR 本部長 上野 満男 氏

- ・日本製紙連合会による紙パルプ業界のプレゼンス向上ならびに会員間の情報共有を目的としたSDGs目標に対するワーキンググループについて、貢献可能なSDGs目標との関連付けと取りまとめの経緯について講演した。
- ・検討プロセスとしては、まず参加メンバーよりアンケート調査を通じたデータ収集を行い、そのデータに基づく紙パルプ業界の



分析から紙パルプ業界の13のマテリアリティ（価値創造に重大な影響を及ぼす事象）を抽出した。次に、この13のマテリアリティにおけるリスクと機会を特定し、これらリスクと機会に対応する業界の現状の取り組みの整理を行った。最後に、その取り組みに紐づく業界としてのSDGs目標及びターゲットを設定するという流れで検討を進めた。

- ・検討結果をSDGs目標にマッピングして分析し、紙パルプ業界がすでに貢献しているSDGs目標（8項目）の特定やさらなる貢献が期待されるSDGs目標（4項目）の特定を行った。この分析結果をもとに、①すでに貢献しているSDGs目標に対する社会的認知の不足、②紙パルプ業界としての目標やKPI（環境行動計画）が出そろっていない、といった2つの課題が抽出された。
- ・2つの課題克服に向けた対応方針と戦略的取組について、サステナビリティレポートの作成・公開や業界のPR動画の作成、SNSの活用などを通じて、業界が既に貢献しているSDGs目標について社会的認知を高めていく取り組みを行うこととした。また、会員企業のSDGsに関する取り組み状況や社会動向、業界に求められるニーズを注視しながら、業界活動を短期的かつ機敏に見直すための組織を整備することを示した。

「自治体の古紙回収の取組みと課題～紙リサイクル施策調査より～」

有限会社グローバルプランニング 取締役 小笠原 秀信 氏

- ・全国の自治体の古紙回収（資源回収）施策の動向を継続的に把握することを目的とした「紙リサイクル施策調査」の結果に基づき、古紙回収の現状や今後の課題について講演した。
- ・経済社会の構造変化と古紙回収の関係について、人口動態の変化やデジタル化、SDGsの浸透が紙リサイクルなどの資源循環のあり方に直接的・間接的に影響を及ぼす。少子高齢化や核家族化といった人口動態に変化に対応した資源回収システムの構築やデジタル化による紙媒体から電子媒体へのシフト、SDGsという枠組みを紙リサイクルにどのように取り込んでいくか、といったことを今後の課題として挙げた。
- ・古紙回収の現状については、紙・板紙の生産量を反映して新聞・雑誌は減少、段ボールは微増、雑がみは横ばいで推移している。この中で雑がみについて、回収量が増加することによりごみの減量化につながる一方で、今後は回収した雑がみをどのように使っていくかが課題となる。また、拠点回収の増加・多様化により古紙の排出ルートが多様化していくことが考えられ、既存の回収システムとの共存・維持が課題となる。日本の特徴的な資源回収システムである集団回収については、紙リサイクルに最も貢献度の高いシステムであることから、これをいかに持続・発展していくかが今後の重要な課題となる。
- ・紙リサイクルは様々な組織や業界（ステークホルダー）の協力により成立しており、調査事業によって得られた情報を自治体にフィードバックし、紙リサイクルシステムに反映していくことが重要である。併せて、紙リサイクルに対する自治体のニーズの調査を行い、どのよ



うな問題を抱えているかを常に把握する必要がある。

「中国製紙業界と東南アジア諸国の現状」

国際紙パルプ商事株式会社 グローバルビジネス統括本部

製紙原料営業本部 本部長 中道 徹 氏

- ・ 中国の古紙輸入停止の現状とその背景や古紙輸入停止措置に伴う東南アジア諸国の現状、新型コロナの国際古紙市場への影響とコロナ後の展望について講演した。
- ・ 中国が2021年より固形廃棄物の輸入禁止措置を行ったが、これに至るまでの経緯として中国では古紙輸入ライセンスの削減や国内での再資源化物の回収促進政策を段階的に実行してきた。この背景としては、中国経済の発展に伴い古紙に限らず環境負荷の高い再資源化物の輸入量が増加し、これらに含まれるごみの増加による公害の発生を招いたことがあげられる。このような社会問題に対し、輸入禁止措置と中国国内での古紙回収・利用促進の取り組みが進んでいる。このような取り組みによって2021年の中国国内の古紙回収量は約250～300万トン増加していると推測されが、この回収量の増加をもって不足する製紙原料については古紙パルプ、段原紙の輸入で補っている。2021年1月～8月累計の古紙パルプの輸入実績は約240万トンであり、これは2020年の通年で輸入実績に相当する。2021年の古紙パルプの輸入予測は約360万トンと見込まれており、タイやマレーシアでは中国製紙メーカーが自社工場向けの古紙パルプ生産を拡大している。また、メーカー系以外に中小規模の古紙パルプメーカーが乱立しており、段原紙・古紙の市況変動要因となっている。中国の段原紙の輸入実績は古紙輸入量の削減に応じて増加してきたものの、2021年の中芯原紙の輸入実績が約100万トン減少する見込みである。今後は中国国内でも新規の段原紙マシンの稼働が予定されており、中芯原紙の輸入は減少に転じる可能性がある。
- ・ 日本の古紙輸出は中国から東南アジア諸国へと輸出先が変化している。品種ごとに違いはあるもののベトナムや台湾、インドネシア、マレーシアなど東南アジア各国に分散している。特にベトナムは中国の代替生産拠点としてグローバル企業からの投資が集中している。その背景として、関税や人件費などのコストの低さやアジア主要国の中で中国と最も輸出品目や相手国等が類似しており、中国での生産を代替しやすいことが挙げられる。また、ベトナム政府の外資系企業に対する税制優遇措置や、人口の多さ、中国との地理的な近さ等も企業の判断に影響していると見られる。
- ・ コロナ後の国際古紙市場としては、欧米でのロックダウン解除や景気回復により自国内の古紙消費が拡大しアジア向け古紙の供給力が低下すると見込まれる。また、東南アジア諸国でのロックダウンにより自国内の古紙回収が停滞し、日本の古紙輸出価格は強含みで推移すると予想される。中期的には2024年に掛けて全世界で年産約4,000万トン（古紙パルプ含む）の段ボール原紙抄造機の新設・転抄が計画されており、古紙需要拡大が見込まれる。段ボー



ル古紙の輸出市況価格は強含みで推移しており、コロナ禍の終息を期に本格的上昇基調に転ずると予測される。

<閉会挨拶要旨>

公益財団法人 古紙再生促進センター 副理事長 栗原 正雄

本日の講演は多様な観点から紙リサイクルに関する講演をいただいた。新型コロナウイルスによる社会変化や世界的な気候変動など、大きく私たちを取り巻く環境が変化中、今後の紙リサイクルを推進していく上で有意義な講演であった。また、このコロナ禍において会場参加だけでなく YouTube によるライブ配信を含めて多くの方にセミナーに参加していただきましたこと改めて御礼申し上げます。



なお、今回の紙リサイクルセミナーでは当センターより2点の取り組みを報告した。

① SDGs への取り組み

2021年10月からセンターHPにSDGs専用のWebページを開設し、ステークホルダーに向けて啓発資料を掲載する。また、センターとしてのSDGs目標の策定やアンケート調査、課題の取りまとめなどを行い広く発信する予定。

② 中長期的な課題整理に向けた検討

2024年3月に当センターが創立50周年を迎えるにあたり、関連する多様なステークホルダーと共に紙リサイクルに関する中長期的な課題を検討・整理する。まずは、ポストコロナ社会やサーキュラーエコノミー、気候変動などオンラインオープンセミナーを通じた情報発信を行う。



富士市立田子浦小学校

静岡県富士市中丸9 8



センター会員から子ども達に紙リサイクルの大切さを伝える

実施 概要

実施日	2021 年 10 月 27 日 (水)		
実施場所	富士市立田子浦小学校		
参加者	小学 4 年生 3 クラス (85 名)		
講師	菊池初彦 (株) 丸元紙業	佐野克弥 (株) アカツキ	
	津國悦朗 (株) 丸元紙業	石原純 (株) 市川商店	
	服部綾人 (株) 高野実業	齋藤知治 三和商工 (株)	
	鈴木滋敏 (株) 鈴剛	大石佳広 (株) 日刊紙業通信社	
	中松泰士 (株) 二見	長島由紀 静岡県製紙原料商業組合	

紙リサイクル講義では、センター会員の佐藤氏（株式会社アカツキ）に講師を務めていただき授業を実施しました。

授業は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて、密にならないよう広い体育館で1組～3組を2回に分けて講義を行いました。

授業では身の回りにある紙の役割や紙の原料となる木材パルプ・古紙パルプについて見本を観察してもらいました。普段使用している紙がパルプからできていることを知った子ども達から、驚きの声が上がっていました。また、授業の中に〇×クイズを取り入れ、普段紙を分別する際に古紙に出してはいけない紙（禁忌品）について全員参加しながら楽しく学ぶ講義を実施することができました。

授業を通して、身近にある紙のリサイクルの重要性やその目的、分別のポイントについて理解を深めてもらったのではないかと思います。

紙リサイクル講義の様子



講義の様子 ※講師は佐野委員 / (株) アカツキ



〇×クイズの様子

手すきはがき作りは、第1理科室・第2理科室に分かれて実施しました。センター会員の皆様には子ども達の手すきはがき作りをサポートしていただきました。

不要になったコピー用紙を水と一緒にミキサーで細かくほぐし、すき枠に流し込んだオリジナルのはがきを作成していました。

使用済みのコピー用紙が新しくはがきに生まれ変わる過程を体験し、講義と併せて紙リサイクルの大切さを実感する講義になりました。

手すきはがき作りの様子



出前授業



報告

坂戸市立桜小学校

埼玉県坂戸市泉町 3 丁目 2 8-7



紙すき体験を通じて、紙リサイクルの大切さを学ぶ

実施 概要

実施日	2021 年 10 月 18 日 (月)
実施場所	坂戸市立桜小学校
参加者	小学 3 年生 2 クラス (58 名)
講師	古紙再生促進センター本部
概要	紙リサイクル講義 (2 クラス合同/多目的室) 手すきはがき作り体験 (各組/理科室)

紙リサイクル講義は、3年生2クラス合同で多目的室にて実施しました。

子ども達一人ひとりに古紙パルプの見本を配布し、実際に触って観察してもらいながら講義を進めました。また、紙リサイクルに関するアニメの視聴や〇×クイズを実施し、子ども達に参加してもらいながら講義を進めていきました。

児童たちには紙リサイクルのポイントや家庭での排出時の分別方法について楽しみながら理解を深めてもらいました。

紙リサイクル講義の様子



古紙パルプ観察の様子

手すきはがき作りでは、理科室にてクラスごとに実施しました。

最初にセンター職員による手すきはがき作りのデモンストレーションを行い、手順の説明やはがき作りを行う際の注意点について説明しました。その後、班ごとに協力し合いながら一人ひとり不要になったコピー用紙から新しいはがきを作る体験をしてもらいました。

不要になったコピー用紙を水と一緒にミキサーでかき混ぜ古紙パルプを作成し、紙すきキットを用いてはがきを作りました。かき混ぜたコピー用紙がドロドロになっている様子を観察した児童からは驚きの声が挙がっていました。普段使用している紙がどのような流れでリサイクルされているのかを児童に体験してもらうことができました。

使い終わったコピー用紙が実際にはがきに生まれ変わることを体験し、より一層紙リサイクルの大切さや分別の重要性を実感することができた講義になりました。

手すきはがき作りの様子



手すきはがき作り デモンストレーションの様子



出前授業



報告

志木市宗岡第三小学校

埼玉県志木市下宗岡1丁目15-30



体験学習を通じて、紙リサイクルの大切さを理解する

実施 概要

実施日	2021年10月26日(火)
実施場所	志木市立宗岡第三小学校
参加者	小学4年生 2クラス(55名)
講師	古紙再生促進センター職員 2名
概要	紙リサイクル講義(2クラス合同/オンライン) 手すきはがき作り体験(各組/家庭科室)

志木市立宗岡第三小学校での出前授業では前半の紙リサイクル講義はオンラインで実施し、後半の手すきはがき作り体験は対面授業で実施するというオンラインと対面授業を組み合わせた形で講義を行いました。

紙リサイクル講義は家庭科室からオンライン（zoom）で行い、子ども達は各教室でiPadやモニターを使いながら授業を進めていきました。○×クイズや質疑応答についてもiPadを活用し、オンライン環境下でも子ども達とスムーズなコミュニケーションを取ることができました。授業の中では、子ども達が積極的に挙手し、自分の意見を発表する姿が見受けられ、意欲的に授業に取り組んでいました。

オンライン環境であっても、双方向での円滑なコミュニケーションを実現し、子ども達が楽しく紙リサイクルの目的や分別の大切さを学ぶことができる講義になりました。

紙リサイクル講義の様子



オンライン紙リサイクル講義の様子（講師側）



オンライン紙リサイクル講義の様子（児童側）

手すきはがき作りは、クラスごとに家庭科室で実施しました。

不要になったコピー用紙を水と一緒にミキサーでかき混ぜ、古紙パルプを作成しました。ドロドロになったコピー用紙を見た子ども達から驚きの声上がり、普段使っている紙がこのような古紙パルプからできていることを観察してもらいました。

使い終わったコピー用紙がはがきに生まれ変わることを体験し、より一層紙リサイクルの大切さを実感することができる講義になりました。

手すきはがき作りの様子



月 日	会 議 名	主 要 議 題
10月1日(金)	9月度常任理事会	①理事の交代について(案) ②集団回収実施団体への感謝状贈呈について(東北地区委員会、中部地区委員会、近畿地区委員会推薦) ③輸出委員会賛助会費の進捗状況について ④ロウ引き段ボール及び油污れの付着した段ボールの混入防止のリーフレットについて ⑤「禁制品見本帳」作成について ⑥令和4年新年互例会について ⑦令和3年度第5回業務委員会議事次第について ⑧その他・今後のスケジュールについて
	第5回業務委員会 (Web会議システム併用)	①各地区の古紙需給・市況動向について ②集団回収実施団体への感謝状贈呈について(東北地区委員会、中部地区委員会、近畿地区委員会推薦) ③輸出委員会賛助会費の進捗状況について ④SDGsについて ⑤ロウ引き段ボール及び油污れの付着した段ボールの混入防止のリーフレットについて ⑥その他・今後の業務委員会等の開催予定
10月7日(木)	九州地区委員会 (Web会議システム併用)	①古紙の需給・市況動向について ②古紙の品質について ・古紙品質状況8月速報 ・ロウ引き段ボール、油染みリーフレットについて ③今後の地区活動計画 ④その他 ・親と子の紙リサイクル読本冊子10月中旬発行 ・北九州市小学生対象の紙リサイクルバスツアーについて ・紙リサイクル出前授業要請について ・10月15日(金)紙リサイクルセミナー開催案内 ・海外関連トピックス
10月15日(金)	中部地区委員会北陸分会 (Web会議システム併用)	①古紙の需給・市況動向について ②令和3年度集団回収実施団体への感謝状贈呈について ③その他・今後の地区委員会等の開催予定
10月19日(火)	中部地区委員会東海分会 (Web会議システム併用)	①古紙の需給・市況動向について ②令和3年度集団回収実施団体への感謝状贈呈について ③紙リサイクルセミナーについて ④業務委員会議事要旨 ⑤その他・今後の地区委員会等の開催予定
10月20日(水)	関東地区委員会 (Web会議システム併用)	①古紙需給動向(古紙問屋) ②古紙及び製品需給動向(製紙会社) ③古紙品質トラブル報告 ④関東地区古紙品質調査古紙開梱組成調査(令和3年度上期) ⑤段ボール、新聞、雑誌の2021年7月～9月消費実績、2021年10月～12月消費計画 ⑥その他 ・「令和3年度紙リサイクルセミナー」(10月15日(金)開催) 11月1日(月)まで、Youtubeを通し動画配信 ・紙リサイクル出前授業 10月26日(火) 志木市立宗岡第三小学校 11月2日(火) 多摩市立多摩第一小学校 11月5日(金) 目黒区立下目黒小学校 11月10日(水) 横浜市立入船小学校 11月17日(水) 横浜市立洋光台第四小学校 ・今後の関東地区委員会等の開催予定
10月22日(金)	近畿地区委員会 (Web会議システム併用)	①古紙の需給・市況動向について ②検収委員会報告 ③その他・今後の近畿地区委員会等の開催予定
10月29日(金)	10月度常任理事会	①集団回収実施団体への感謝状贈呈について(中部地区委員会、中・四国地区委員会推薦) ②令和3年度紙リサイクルセミナー(結果報告) ③紙リサイクル出前授業の更なる活性化に向けて(案) ④中長期的・持続可能な紙リサイクルに向けた課題整理 ⑤業務委員会のセンター出席に関する意見聴取について ⑥令和3年度第6回業務委員会議事次第について ⑦その他・今後のスケジュールについて
	第6回業務委員会 (Web会議システム併用)	①各地区の古紙需給・市況動向について ②2021年10月～2022年3月段ボール・新聞・雑誌の消費計画について ③集団回収実施団体への感謝状贈呈について(中部地区委員会、中・四国地区委員会推薦) ④令和3年度紙リサイクルセミナー(結果報告) ⑤古紙開梱組成結果(中間報告) ⑥その他・今後の業務委員会等の開催予定
11月11日(木)	九州地区委員会 (Web会議システム併用)	①古紙の需給・市況動向について ②古紙の品質について ③今後の地区活動計画 ④その他・今後の地区委員会等の開催予定
11月19日(金)	関東地区委員会 (Web会議システム併用)	①古紙需給動向(古紙問屋) ②古紙及び製品需給動向(製紙会社) ③古紙品質トラブル報告 ④集団回収実施団体への感謝状贈呈について ⑤その他 ○全国小中学生「紙リサイクル」コンテスト2021 ・応募状況について ・応募締切:令和3年12月10日(金)当日消印有効 ・表彰式:(予定)令和4年3月5日(土)14時00分 ホテル東京ガーデンパレス 10月18日(月)～11月1日(月) Youtubeによる動画配信 ○Webセミナー 令和3年12月15日(水)10:00～11:00 ・講演内容:ベトナム経済の現状と今後の見通し ・講師:日本貿易振興機構(ジェトロ) 海外調査部アジア大洋州課課長代理 北嶋 誠士 氏 ・今後の関東地区委員会等の開催予定
	中部地区委員会甲信分会	①古紙の需給・市況動向について ②令和3年度集団回収実施団体への感謝状贈呈について ③令和4年度予算について ④ながの環境フェアについて ⑤その他・今後の地区委員会等の開催予定

月 日	会 議 名	主 要 議 題
11月25日(木)	北海道地区委員会 (Web会議システム併用)	①古紙共販集計表について ②古紙需給動向について ③古紙消費実績と計画対比表について ④令和3年10月～令和4年3月における古紙消費計画について ⑤北海道商組の古紙仕入・出荷・在庫量調査表について ⑥古紙消費量、在庫量推移グラフ ⑦情報交換 ⑧その他 ・1月度の地区委員会開催方式について ・新年交礼会開催有無について ・ちとせ環境と緑の財団から依頼の紙リサイクル研修会の講師選定について
	静岡地区委員会 (Web会議システム併用)	①古紙の需給・市況動向について ②紙リサイクル出前授業の実施報告及び今後の計画について ③集団回収実施団体への感謝状贈呈の報告 ④Webセミナーの開催について ⑤富士山紙フェアの今後の予定について ⑥令和4年度広報事業費、地区事業費の予算(案)について ⑦委員懇話会の開催可否について ⑧年末年始のメーカー古紙受け入れ計画の調査 ⑨今後の地区委員会等の開催予定
	近畿地区委員会	①古紙の需給・市況動向について ②換収委員会報告 ③その他 今後の近畿地区委員会等の開催予定
11月29日(月)	第2回新潟分会 (Web会議システム併用)	①古紙の需給・市況動向について ②令和3年度集団回収実施団体への感謝状贈呈について ③令和4年度以降の事業について ④その他
12月2日(木)	11月度常任理事会	①集団回収実施団体への感謝状の贈呈について(関東地区委員会、中部地区委員会推薦) ②コロナ禍における集団回収実施団体への感謝状の贈呈に係る運用について(討議) ③「全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2021」の応募状況等について ・応募状況について ・応募締切:令和3年12月10日(金)消印有効 ・表彰式:(予定)令和4年3月5日(土)14時 ホテル東京ガーデンパレス ④2022年度(令和4年度)予算策定関連 ⑤中長期的・持続可能な紙リサイクルに向けた課題整理 ⑥令和3年度第7回業務委員会議事次第について ⑦その他 今後のスケジュールについて
	第7回業務委員会 (Web会議システム併用)	①各地区の古紙需給・市況動向について ②集団回収実施団体への感謝状贈呈について(関東地区委員会、中部地区委員会推薦) ③「全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2021」の応募 ・応募状況について ・応募締切:令和3年12月10日(金)消印有効 ・表彰式:(予定)令和4年3月5日(土)14時 ホテル東京ガーデンパレス ④中長期的・持続可能な紙リサイクルに向けた課題整理 ⑤その他 今後の業務委員会等の開催予定
12月3日(金)	第3回輸出委員会 (Web会議システム併用)	①古紙需給の現状及び見通しに関する情報交換 ・古紙発生の現状及び見通し ・国内製紙会社の古紙消費の現状及び見通し報告 ・古紙輸出に関するトピックス及び見通し ②MIX・雑誌古紙輸入規制対策アンケート結果(再掲) ③その他 ・2022年度以降の輸出に伴う賛助会費の説明進捗状況 ・中長期的・持続可能な紙リサイクルに向けた課題整理 ・今後の委員会日程について
12月9日(木)	九州地区委員会 (Web会議システム併用)	①古紙の需給・市況動向について ②受け入れ古紙品質について各社報告 ③今後の地区活動計画 ④報告事項 ・紙リサイクルコンテスト2021の応募進捗状況 ・集団回収実施団体への感謝状贈呈についての訂正検討 ⑤その他 ・webセミナー開催 開催日時:12月15日(水)10:00~11:00 講演内容:ベトナム経済の現状と今後の見通し
12月10日(金)	東北地区委員会	①業務委員会報告 ②その他報告事項 ③古紙の需給・市況動向について ④その他 ・今後の東北地区委員会等の開催予定 集団回収実施団体への感謝状贈呈式
12月15日(水)	第9回家庭紙委員会 (Web会議システム併用)	①古紙入荷・消費・在庫(2021年8月~10月) ・古紙地域別入荷 ②古紙需給の現状及び見通しに関する意見交換 ・古紙発生の現状、見通し、古紙輸出、トピックス等 ・メーカー消費の現状及び見通し ③古紙の品質に関する情報交換 ・メーカーでの品質トラブル、禁忌品報告 ④古紙品質に関する報告について ・板紙メーカーの機密文書処理に関する異物混入と対応 ⑤その他 ・中長期的・持続可能な紙リサイクルに向けた課題整理 ・次回の家庭紙委員会の日程について
	中部地区委員会東海分会	①古紙の需給・市況動向について ②令和4年度地区支援、地区事業の予算申請について ③集団回収実施団体への感謝状贈呈について ④紙リサイクル出前授業について ⑤その他 今後の中部地区委員会等の開催予定
12月17日(金)	関東地区委員会 (Web会議システム併用)	①古紙需給動向(古紙問屋) ②古紙及び製品需給動向(製紙会社) ・年末年始の古紙荷受け予定日 ③古紙品質トラブル報告 ④その他 今後の関東地区委員会等の開催予定

◇編集後記

明けましておめでとうございます。

さて、本号では令和3年10月15日（金）に開催した紙リサイクルセミナーについて掲載しました。今回の紙リサイクルセミナーも昨年に引き続き人数制限を講じた上での会場参加とYouTubeでのライブ配信及び2週間の録画配信という形態で開催しました。多くの方にご参加・ご視聴いただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

今回も紙リサイクル出前授業の実施報告を掲載しています。対面授業だけでなく、オンライン授業を活用しながら、これまで以上に紙リサイクルの啓発を行って参ります。

本年もセンター活動に関して、関係各位のご協力をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。（武田）

地区委員会事務局

地 区	郵便番号	所 在 地	電 話 番 号 F A X 番 号
北 海 道	060-0002	札幌市中央区北二条西2丁目 リージェントビル5階	011 (271) 1551 011 (232) 0017
東 北	980-6003	仙台市青葉区中央4-6-1 住友生命仙台中央ビル3階 日本紙パルプ商事（株）北日本支社内	022 (225) 3359 022 (261) 4522
関 東	104-0042	東京都中央区入船3丁目10番9号 新富町ビル4階	03 (3537) 6822 03 (3537) 6823
静 岡	417-0801	富士市大淵2590番1号 静岡県富士工業技術支援センター内	0545 (35) 5270 0545 (35) 5026
中 部	450-0002	名古屋市市中村区名駅3丁目25番9号 堀内ビル7階	052 (582) 1836 052 (581) 6943
近 畿	541-0052	大阪市中央区安土町1丁目7番13号 トヤマビル7階 日本製紙連合会関西支部内	06 (6262) 6315 06 (6262) 6316
中・四国	799-0492	四国中央市三島紙屋町2番60号 大王製紙（株）内	0896 (23) 9124 0896 (23) 4411
九 州	812-0011	福岡市博多区博多駅前4丁目13番27号 グランドハイツ博多314号	092 (292) 5381 092 (292) 5382

会報

第48巻 第1号
2022年1月16日

発行所

公益財団法人 古紙再生促進センター

〒104-0042 東京都中央区入船3丁目10番9号
(新富町ビル4F)

電話 03 (3537) 6822 (代表)

ホームページ <http://www.prpc.or.jp>

発行人 川 上 正 智

印刷所 日本印刷株式会社

リサイクル適性®

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。